

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	関西国際大学
設置者名	学校法人 濱名学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計		
人間科学部	人間心理学科	夜・通信	2	2	39	43	13	
教育学部	教育福祉学科	夜・通信		2	65	69	13	
保健医療学部	看護学科	夜・通信		0	53	55	13	
経営学部	経営学科	夜・通信		2	18	20	13	
国際コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	夜・通信		2	27	31	13	
人間科学部	経営学科	夜・通信	2	0	34	36	13	
教育学部	英語コミュニケーション学科	夜・通信		0	30	32	13	
(備考)								
人間科学部経営学科は、2019 年度より経営学部経営学科へ改組								
教育学部英語コミュニケーション学科は、2019 年度より国際コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科へ改組								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

HPにより公開 http://www.kuins.ac.jp/library/PDF/kuisinfo_2019/04/zitumukakyouuin.pdf
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 該当なし
(困難である理由) なし

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	関西国際大学
設置者名	学校法人 濱名学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

大学ホームページにより公開

http://www.kuins.ac.jp/library/PDF/kuisinfo_2019/04/yakuin.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	あけぼの学院 理事	2016. 4. 1～ 2020. 3. 31	コンプライアンス 担当
非常勤	キング醸造株式会社 最高顧問	2016. 4. 1～ 2020. 3. 31	産官学連携担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	関西国際大学
設置者名	学校法人 濱名学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画書の作成過程 シラバスは、学生が科目の内容を理解しやすく、活用しやすいシラバスとすることを念頭に作成するように各教員へ依頼している。システム上において自動的に、当該授業の科目ナンバリングコードや開講学期等が自動的に記載される。教員に対しては、下記項目についての記載を求めている。 ● 先行して履修すべき科目、並行して履修すべき科目、今後履修すべき科目 ● 学生からの質問に答えるための連絡先（メールアドレスや研究室の番号など） ● 授業形態は、「講義科目」「演習科目」「実験科目」「実習科目」「実技科目」など ● 履修制限がある場合の選抜の方法等 ● 授業の目的と概要。記載については、当該授業の学問分野における位置づけや、学位プログラムの中で設定されている DP を踏まえ、主語を学生にして記載 ● 学習目標 下記のポイントについて記載 ① 学習目標は客観的に評価すること。 ② 1つの文章に1つの目標を示す。(複文とならないように) ③ 評価される条件や基準を明示する。 ● 使用する教科書や参考書、教材、授業で扱う内容に関連する文献、参考となる URL や論文名 ● 成績評価 具体的に、学習目標が達成されたかどうかをどのように判断するのかの視点から、測定の方法、基準の配分を具体的に記載するように求めている。 ● オフィスアワーの曜日時限についての記載。 授業計画書の作成・公表時期 シラバスの作成は、次年度の授業担当が確定する授業開講前年度の1月下旬から、次年度授業担当の専任教員及び非常勤講師に作成を依頼する。その後、各学部学科、高等教育研究開発センター等において、チェックを行い、必要であれば、2月中旬に行われる全学FD等において、シラバスの課題や問題点等について取り上げ、修正等の依頼を行っている。 公表は、3月末からの履修登録にあわせて、WEB上にて公開している。	
授業計画書の公表方法	大学ホームページにより公開 http://www.kuins.ac.jp/about/kuis_information/kuis_information.html

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

卒業認定・学位授与の方針(DP)に掲げる能力・資質及びこれらの総合的な活用力の修得状況は、教育課程編成の方針(CP)の評価に掲げる方法により行い、具体的な評価方法は以下の通りである。

1. KUIS 学修ベンチマーク

卒業認定・学位授与の方針(DP)に掲げる能力・資質のうち、(1) 自律性、(2) 社会的貢献性、(3) 多様性理解、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキルの評価に使用する。これら5つの到達目標を測るために、12項目の測定尺度を設定したKUIS学修ベンチマークルーブリック(評価基準表)を作成している。学生は半年に一度、このルーブリックにもとづいて、どの能力項目がどのレベルにあるのか自己評価を行い、学生を担当するアドバイザーが学生の自己評価結果の確認を行う。

2. 卒業研究の成果

卒業認定・学位授与の方針(DP)に掲げる能力・資質のうち、(6) 専門的知識・技能の活用力は、すべての学科で必修科目にしている卒業研究の成果によって評価する。評価ツールは、卒業論文のルーブリック評価を使用する。

3. 到達確認試験

卒業認定・学位授与の方針(DP)に掲げる能力・資質のうち、(6)に関連し、基礎的な専門的知識・技能の定着について、2年終了時に到達確認試験を実施して評価を行う。この試験の合格は、本学履修規程に定める成績と単位に関する要件とともに、4年の卒業研究を履修するための要件としている。

4. 総括テスト及びレポートなどによる各科目の成績評価

各科目では、シラバスに記載している方法で成績評価を行う。評価は、テストによるもののほか、レポートやプレゼンテーションのルーブリック評価などにより、科目の内容や方法に合わせて多面的に行っている。

具体的には、下記の記載をシラバスに求めている。

① 測定の方法(例: 中間テスト・期末テスト・レポート・エッセイ・eポートフォリオ等)

② 基準の配分(例: テスト60%、レポート20%、毎回のコメント10%、eポートフォリオ10%)

なお、それぞれの測定が、どの時期に行われるのか(例: 中間テスト(日時)、小レポート(毎回))を明記することで、学生は自分自身でスケジュール等を調整し、準備することができるため、必ず提示するように依頼

・成績評価は、授業途中の評価(中間試験等)だけでなく、総括試験、本試験など総括的な評価を必ず行うことと、総括試験、本試験の配点割合はあらかじめ明示し、総括試験、本試験だけで合否が決まるような成績評価にならないように求めている。

・出席点は評価に含めてはいけない(授業への出席は前提)。

・情意的領域の観点を評価の対象とする場合は、それが学習目標に明記されていることと、十分妥当な評価基準を受講生に示しておくこと。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学におけるGPAの算出方法は下記のとおりである。なお、GPAは学業成績優秀者の表彰や学内における各種奨学生の選考の際に資料としている。

◆成績評価と科目GP

各登録科目の成績評価を「4」、「3」、「2」、「1」、「0」に換算する。

成績評価 (100点満点)	科目GP (グレード・ポイント)
90点、100点	4
80点	3
70点	2
60点	1
60点未満	0

◆GPAの計算方法

科目GPに各授業科目単位数を乗じ、その総和を登録科目総単位数で割る計算でGPAの数値を算出

$$GPA (グレード・ポイント・アベレージ) = \frac{(A \text{ 科目 } GP \times A \text{ 科目単位数}) + (B \text{ 科目 } GP \times B \text{ 科目単位数}) + (C \text{ 科目 } GP \times C \text{ 科目単位数}) + \dots}{\text{登録科目総単位数}}$$

◆GPAと学修指導

GPAによる学修指導は以下の通りです。

- ① 前学期（夏、冬学期は含まない）GPAによって、履修登録の上限単位数が増減する。
- ② 年間GPA（春学期または秋学期を起点とし、夏学期または冬学期を含む4学期）が1.00未満の者には、学部長が嚴重注意を行う。
- ③ 連続する2学期（夏学期または冬学期を除く）において、各学期のGPAが共に1.00未満の者には、学部長が保護者同席の上で、嚴重注意を行う。
- ④ 入学以来の累積GPAが1.50以上で、かつ既修得単位数が80単位以上の者のうち、休学期間及び特別履修期間を除く在学期間が3年以上に達している場合で、原則として2年次末に実施される到達確認試験に合格済みの学生は、履修登録の際に、「卒業研究」を登録することができる。ただし、累積GPAが1.50未満の場合でも、到達確認試験に合格済みであり、「卒業研究」を登録しようとする直前1年間の年間GPAが1.60以上で、年間34単位以上を修得し、学修態度に改善があった者には、「卒業研究」の登録を認めることがある。
- ⑤ 1年次秋学期以降で、連続する春・夏・秋・冬・春・夏学期または秋・冬・春・夏・秋・冬学期において当該期間の累積GPAが1.00未満の者には、学部長が退学を勧告する。但し、本人およびアドバイザーの意見を聞いた上で、卒業の可能性があると判断されれば、この限りではない。また、学修の継続を希望する者は、特別履修期間として在学することができる。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

大学ホームページにて公開
http://www.kuins.ac.jp/about/kuis_information.html
 学修の成果にかかる評価

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 本学においては、学院の建学の精神「以愛為園」を基本理念とし、本学の各学位プログラムの課程を修め、126 単位の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、学則第 1 条に定めるグローバルな視野に立った教養と専門的知識・技術を修得し、安全な社会やコミュニティ作りに向けて総合的に活用できる人材を育成することを目的としている。 その実現のために、同第 1 条の 2 に定める下記の力・資質を修得・涵養し、それらを総合的に活用できる人材を養成することを教育目標としている。 (1) 自律的で主体的な態度（自律性） 自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができる。 (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 集団や社会のために他者とともに行動し、貢献することができる。 (3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できる。 (4) 問題発見・解決力 根拠にもとづいて、問題を発見したり解決のアイデアを構想したりする思考力や判断力を身につけ、問題を解決することができる。 (5) コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができる。 (6) 専門的知識・技能 の活用力 自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を修得し、実際に想定した場面で活用することができる。 上記、卒業認定・学位授与の方針(DP)に掲げる能力・資質のうち、(6) 専門的知識・技能の活用力は、すべての学科で必修科目にしている卒業研究の成果によって評価する。評価ツールは、卒業論文のルーブリック評価を使用する。 なお、基礎的な専門的知識・技能の定着について、2 年終了時に到達確認試験を実施して評価を行う。この試験の合格は、本学履修規程に定める成績と単位に関する要件とともに、4 年の卒業研究を履修するための要件としている。 大学ホームページにて公開 http://www.kuins.ac.jp/about/kuis_information.html 卒業又は修了の認定に当たっての基準

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	関西国際大学
設置者名	学校法人 濱名学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	大学ホームページにて公開 http://www.kuins.ac.jp/library/PDF/zaimu_201906/h30kuis_report.pdf
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報(書)	同上

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:
公表方法:	
中長期計画(名称:	対象年度:
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 大学ホームページにより公開 http://www.kuins.ac.jp/about/hyoka.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 大学ホームページにより公開 http://www.kuins.ac.jp/about/hyoka.html
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 経営学部 経営学科
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公開 http://www.kuins.ac.jp/old_faculty/aim/management.html ）
（概要） 経営学科（以下、「本学科」という）では、本学の課程を修め、126 単位の単位修得と必修等の条件を充たし、グローバルな視野に立った教養と専門的知識・技能、および、以下の 6 つの力・資質を総合的に活用して、営利・非営利の継続的事業体（以下「組織や集団」と呼ぶ）のマネジメントができる人材を育成します。 *本学科の 3 つのポリシーにおける「マネジメント」とは、組織や集団の目的を達成するための効果を最大化する手法のことをいいます。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 http://www.kuins.ac.jp/faculty/management/3policy.html ）
1. 学位授与の方針【DP】 KUIS 学修ベンチマークで定めている教育目標に対して、以下の力・資質を総合的に活用して、営利・非営利の継続的事業体のマネジメントができる素養を備えた人物に学士（経営学）の学位を授与します。 (1) 自律的で主体的な態度（自律性） 自分の目標や組織や集団の目的を実現するために責任をもって、意欲的に行動することができる。 (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 社会のルールを守り、他者と協働しながら、組織や集団の目的達成に貢献することができる。 (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） 世界には、様々な文化や価値観をもった人々がいることを理解し、違いを尊重しながら行動できる。 (4) 問題発見・解決力 組織や集団において情報の収集・分析を行い、問題を発見したり、解決へのアイデアを提案したりできる。 (5) コミュニケーションスキル 組織や集団の内外で、他者と意見を交わし調整することができる。 (6) 専門的知識・技能の活用力 組織や集団の構成員として、マネジメントの知識・技能を、状況に応じて適切に活用することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開
<http://www.kuins.ac.jp/faculty/management/3policy.html>

2. 教育課程の編成の方針【CP】

本学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる知識・技能などを修得できるように、4年間の教育内容を体系的に編成し、教育方法を工夫して、達成状況を評価していきます。

1) 教育内容

本学科の教育課程は、基盤教育科目と専門教育科目で構成し、科目内容に応じて分類し、基礎から応用へ段階的に学べるように編成します。

科目の段階的編成を明確にするために、すべての科目に内容と難易度を表現する記号と番号を付するナンバリングを行い、教育課程の体系と履修の優先度を明示します。

基盤教育科目と専門教育科目の内容は以下の通りです。

(1) 基盤教育科目

基盤教育科目では、生涯にわたって活躍し、豊かな人生を送るための基盤となる教養やスキルを修得します。基盤教育科目は低学年を中心に編成し、以下の内容について学びます。

- ・レポートの書き方や批判的な思考などの大学での学びに必要な知識を学びます。
- ・人間、社会、科学をテーマとする生活に直面した課題を考え、教養を身につけます。
- ・グローバル社会に必要な語学、ICT（情報通信技術）、スポーツに関するスキルを身につけます。
- ・異文化の社会について理解し、協力する態度を身につけます。
- ・卒業後の進路を見据えたキャリア形成を養います。

(2) 専門教育科目

専門教育科目では、組織や集団のマネジメントに対する理解とそれを実践するための知識や方法の基礎を学びます。

- ・1年次から順次、マネジメントの基礎となる経営、経済、マーケティング、ファイナンス、統計分野に関する知識と方法を学びます。
- ・1年終了時には、学生の希望や適性などを考慮して専攻を決定します。本学科では、次の3つの専攻を設定します。

1) 国際ツーリズム専攻

人々の国際的な移動の増加に伴って進展するツーリズムのマネジメントを学びます。

2) 地域マネジメント専攻

地域を活性化し持続可能な社会をマネジメントする方法を学びます。

3) 防災・危機マネジメント専攻

安全・安心な社会を維持し、災害への対応や備えをマネジメントする方法を学びます。

- ・2年次以降、専攻ごとに履修すべき科目を定めます。専攻の科目を履修することで、その専攻の教育目的に沿った科目を体系的に学びます。
- ・2年次には、現実の課題について気づきと理解を深めるインターンシップ・プログラムに参加します。
- ・2年次以降、教室での学びと現場での経験を統合していきます。

2) 教育方法

アクティブラーニングの視点を取り入れ、学生が能動的に学べる教育方法を実践します。主な手法は次の通りです。

(1) グループワーク等を重視した学習方法を取り入れます

教室内の講義型授業においてもグループワークやペアワーク、ディスカッションを活用します。これらの手法を通して、学生が協働して主体的・能動的に学びを深めていきます。

(2) 課題発見・解決力をつけるために経験学習を取り入れます

サービ斯拉ーニング、インターンシップ、グローバルスタディといった経験学習の機会を設定します。現実での課題を発見したり、知識・技能を用いて課題解決策を提案したりすることにより、経験を次の学習に活かします。

(3) 学期中・学期末に評価のフィードバックを行います

学期中・学期末を通して評価を複数回行います。評価後のレポートや答案は可能な限りすべて学生に返却します。学習上の課題を明確にして、理解の向上に役立てます。

(4) ICT システムを利用した教育方法を取入れます

e ラーニングシステムおよびe ポートフォリオシステムを利用します。

e ラーニングシステムは、予習・復習、小テスト、レポート提出、等に利用します。

e ポートフォリオには、学修成果を蓄積し、自己の学修成果を自身で管理して、目標達成の裏付けとしたり、次の目標設定に利用します。

(5) ラーニング・ルートマップを用いて学生自身が計画を立てて学修を進めます

4年間の学修の流れを学修フローチャートで示します。また、専攻ごとの科目体系はカリキュラムマップで示します。学生は学修フローチャートやカリキュラムマップを参照し、卒業後の進路を考慮しながら、4年間の計画を立て、ラーニング・ルートマップに表現します。随時、計画の遂行を確認し、必要があれば計画を修正しながら目標達成を目指します。

3) 教育評価

それぞれの科目における評価、および、卒業認定・学位授与の方針に掲げる6つの目標に対する評価を次の考え方と方法で行います。

- (1) 形成的評価を用いつつ、各学期の終わりに総括的評価を行います
各科目では、学修の成果を評価するためにテスト、レポート、プレゼンテーションなどを利用します。レポートやプレゼンテーションはルーブリック（評価表）を用いて評価します。評価は学期中にも行い、学生の理解状況を把握して補習を設定したり、学生へのフィードバックに利用します（形成的評価）。学期の終盤には総合的・全体的な評価を行います（総括的評価）。成績評価はこれらの評価を組み合わせ、多面的・総合的にを行います。
- (2) KUIS 学修ベンチマークを定期的にチェックすることで到達度を確認します
半年に一度、卒業認定・学位授与の方針に掲げた力・資質について、その到達度を定められた評価指標（KUIS 学修ベンチマークルーブリック）で自己評価を行い、教員と面談のうえ、自分の成長の確認をしてもらいます。
- (3) 2 年次終了時に到達確認試験により専門基礎知識の修得を確認します
2 年次終了時には、専門基礎知識の修得度を確認し、卒業研究の履修能力を確認するために「到達確認試験」を行います。不合格の者には再試験を課し、その合格を求めます。
- (4) 卒業研究によって卒業時の専門知識の修得を確認します
4 年間の学修成果は、組織や集団のマネジメントに関わる課題を扱った卒業研究（必修）によって総合的に評価を行います。評価方法は複数教員が共通の評価指標（評価ルーブリック）を活用して行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開
<http://www.kuins.ac.jp/faculty/management/3policy.html>

3. 入学者選抜の方針【A P】

（求める学生像）

本学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人物を求めます。

（高等学校での修得が望ましい水準）

【知識・技能】

- (1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。
- (2) 高等学校までの履修内容のうち、「国語総合（現代文）」と「英語」を通じて、聞く・話す・読む・書くことについての基礎力を身につけている。
基礎的英語力（英検 3 級程度）を身につけている。
基礎的数学力（数学 I・数学 A 程度）を身につけている。

【思考力・判断力・表現力】

- (3) 身近な社会の問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。

【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】

- (4) 経営学について興味があり、マネジメントについての知識や体験を社会で活かしたいという意欲がある。
- (5) 学校でのグループ学習、課外活動やボランティア活動等の経験があり、他の人々と協力しながら、課題をやり遂げることができる。

[入学前教育]

- (6) 入学前教育として求められる、必要な基礎的知識を身につけるための e ラーニングプログラムに最後まで取り組むことができる。

学部等名 人間科学部 人間心理学科
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ http://www.kuins.ac.jp/old_faculty/aim/psychology.html
（概要） 人間心理学科（以下、「本学科」という）では、本学の課程を修め、126 単位の単位修得と必修等の条件を充たし、グローバルな視野に立った教養と心理学に関する専門的知識・技能および、以下の力・資質を総合的に修得した人材を育成します。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ http://www.kuins.ac.jp/faculty/psychology/3policy.html
1. 学位授与の方針【DP】 KUIS 学修ベンチマークで定めている教育目標に対して、以下の力・資質を備えた人物に学位を授与します。 （1）自律的で意欲的な態度（自律性） 自分の目標をもち、その実現のために意欲的であるとともに、自ら考え、自らを律して責任のある行動ができる。 （2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 主体的・積極的に社会や他者のために貢献する行動ができる。 （3）多様な文化やその背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 心と行動の普遍性と個別性を理解し、他者への共感的な感覚や態度を身につけ、社会や世界の一員として考え、行動することができる。 （4）問題発見・解決力 よりよい将来を目指して、常に問題意識を持って現状を理解することに努めるとともに、適切な情報収集及び、心理学的測定法と心理アセスメント、心理学実験等、修得した知識や技能を活用して、実証的に分析し、それに基づいて緩和・解決のアイデアを構想し、実行することができる。 （5）コミュニケーションスキル 人間に共通する心理的作用や行動パターンから人の心や集団の行動の普遍性と個別性を理解したうえで、自分の思いや考えを的確に表現・発信し、他者と意見を交わし調整しながら、様々な人と協働して問題解決にあたることができる。 （6）専門的知識・技能の活用力 人の心の機能に関する諸理論や知見、実証的な分析の技能を活用して、（1）から（5）の実現にあたることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開
<http://www.kuins.ac.jp/faculty/psychology/3policy.html>）

2. 教育課程編成の方針【CP】

本学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる知識・技能などを修得できるように、4年間の教育内容を体系的に編成し、教育方法を工夫して、達成状況を評価していきます。

1 教育内容

本学科の教育課程は、基盤教育科目と専門教育科目で構成し、科目内容に応じて分類し、基礎から応用へ段階的に学べるように編成します。

科目の段階的編成を明確にするために、すべての科目に内容と難易度を表現する記号と番号を付するナンバリングを行い、教育課程の体系と履修の優先度を明示します。

基盤教育科目と専門教育科目の内容は以下の通りです。

(1) 基盤教育科目

基盤教育科目では、生涯にわたって活躍し、豊かな人生を送るための基盤となる教養やスキルを修得します。基盤教育科目は低学年を中心に編成し、以下の内容について学びます。

- ・レポートの書き方や批判的な思考などの大学での学びに必要な知識を学びます。
- ・人間、社会、科学をテーマとする生活に直面した課題を考え、教養を身につけます。
- ・グローバル社会に必要な語学、ICT（情報通信技術）、スポーツに関するスキルを身につけます。
- ・異文化の社会について理解し、協力する態度を身につけます。
- ・卒業後の進路を見据えたキャリア形成を養います。

(2) 専門教育科目

専門教育科目では、心と行動の成り立ちや、人に共通する心や行動の傾向、個人の特性による違いについて、心理学のさまざまな理論や知見を活用して理解するとともに、自己や他者、社会の課題を発見し、他者と協働して解決・緩和を図れるようにします。

- ・1年次から順次、心理学の基礎的な知識と方法を学びます。
- ・自己や他者、社会の課題の気づきを得たり理解を深めたりすることができるようになるためにサービslラーニングに参加します。
- ・1年終了時には、学生が自身の希望や適性などを考慮して専攻を決定します。

本学科では、次の4つの専攻を設定します。

1) 犯罪心理学専攻

犯罪者・非行少年の心理、事件を解明する視点や、再犯抑止、防犯について学びます。

2) 心理カウンセリング専攻

さまざまな心の問題を抱えた人や、日常的な人間関係における円滑なかわり方について学びます。

3) 災害心理学専攻

自然災害、事故をはじめとする人的災害等の被害者の援助や、防災・減災に役立つ人の心や行動の理解について学びます。

4) 産業心理学

商品企画や開発、広告デザインなど、多様なビジネスシーンや、社会活動をはじめとする日常のさまざまな場面で実践できる心理学を学びます。

- ・2年次以降、専攻ごとに履修すべき科目を定めます。専攻の科目を履修することで、自身の目的の達成に役立つ科目を体系的に学びます。
- ・2年次以降、現実の課題について気づきと理解を深めるサービ斯拉ーニング・グローバルタディに参加します。
- ・2年次以降、教室での学びと現場での経験を統合していきます。

2 教育方法

アクティブラーニングの視点を取り入れ、学生が能動的に学べる教育方法を実践します。主な手法は次のとおりです。

(1) グループワーク等を重視した学習方法を取り入れます

教室内の講義型授業においてもグループワークやペアワーク、ディスカッションを活用します。これらの手法を通して、学生が協働して主体的・能動的に学びを深めていきます。

(2) 課題発見・解決力をつけるために経験学習を取り入れます

サービ斯拉ーニング、インターンシップ、グローバルスタディといった経験学習の機会を設定します。現実での課題を発見したり、知識・技能を用いて課題解決策を提案したりすることにより、経験を次の学習に活かします。

(3) 学期中・学期末に評価のフィードバックを行います

学期中・学期末を通して評価を複数回行います。評価後のレポートや答案は可能な限りすべて学生に返却します。学習上の課題を明確にして、理解の向上に役立てます。

(4) ICT システムを利用した教育方法を取入れます

e ラーニングシステムおよびe ポートフォリオシステムを利用します。

e ラーニングシステムは、予習・復習、小テスト、レポート提出、等にご利用します。

e ポートフォリオには、学修成果を蓄積し、自己の学修成果を自身で管理して、目標達成の裏付けとしたり、次の目標を設定したりするのに利用します。

(5) ラーニング・ルートマップを用いて学生自身が計画をたてて学修を進めます

4年間の学修の流れを学修フローチャートで示します。また、専攻ごとの科目体系はカリキュラムマップで示します。学生は学修フローチャートやカリキュラムマップを参照し、卒業後の進路を考慮しながら、4年間の計画を立て、ラーニング・

ルートマップに表現します。随時、計画の遂行を確認し、必要があれば計画を修正しながら目標達成を目指します。

3 教育評価

それぞれの科目における評価、および、卒業認定・学位授与の方針に掲げる6つの目標に対する評価を次の考え方と方法で行います。

- (1) 形成的評価を用いつつ、各学期の終わりに総括的評価を行います

各科目では、学修の成果を評価するためにテスト、レポート、プレゼンテーションなどを利用します。レポートやプレゼンテーションはルーブリック（評価表）を用いて評価します。評価は学期中にも行い、学生の理解状況を把握して補習を設定したり、学生へのフィードバックに利用したりします（形成的評価）。学期の終盤には総合的・全体的な評価を行います（総括的評価）。成績評価はこれらの評価を組み合わせ、多面的・総合的に行います。

- (2) KUIS 学修ベンチマークを定期的にチェックすることで到達度を確認します

半年に一度、卒業認定・学位授与の方針に掲げた力・資質について、その到達度を定められた評価指標（KUIS 学修ベンチマークルーブリック）で自己評価を行い、教員と面談のうえ、自分の成長の確認をしてもらいます。

- (3) 2年次終了時に到達確認試験により専門基礎知識の修得を確認します

2年次終了時には、専門基礎知識の修得度を確認し、卒業研究の履修能力を確認するために「到達確認試験」を行います。不合格の者には再試験を課し、その合格を求めます。

- (4) 卒業研究によって卒業時の専門知識の修得を確認します

4年間の学修成果は、人の心や行動など心理学に関わる課題を扱った卒業研究（必修）によって総合的に評価を行います。評価方法は複数教員が共通の評価指標（評価ルーブリック）を活用して行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開
<http://www.kuins.ac.jp/faculty/psychology/3policy.html>）

3. 入学者選抜の方針【AP】

（求める学生像）

本学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人物を求めます。

（高等学校での修得が望ましい水準）

[知識・技能]

- (1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。
- (2) 高等学校までの履修内容のうち、「国語総合（現代文）」と「英語」を通じて、聞く・話す・読む・書くことについての基礎力を身につけている。
基礎的英語力（英検 3 級程度）を身につけている。
基礎的数学力（数学 I ・数学 A 程度）を身につけている。

[思考力・判断力・表現力]

- (3) 身近な社会の問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。

[主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度]

- (4) 安全・安心な社会を作りたいことを望み、そのために心理学を学び、その知見を活用したいという意欲がある。
- (5) 学校でのグループ学習、課外活動やボランティア 活動等の経験があり、グループワークなど他の人たちと協力しながら、課題をやり遂げることができる。

[入学前教育]

- (6) 入学前教育として求められる、必要な基礎的知識を身につけるための e ラーニングプログラムに最後まで取り組むことができる。

学部等名 教育学部 教育福祉学科
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公開 http://www.kuins.ac.jp/old_faculty/aim/welfare.html
（概要） 教育福祉学科（以下、「本学科」という）では、本学の課程を修め、126 単位の単位修得と必修等の条件を充たし、グローバルな視野に立った教養と教育学・社会福祉学の専門的知識・技能及び以下の力・資質を総合的に活用して、教育・福祉専門職として活躍できうる人材を育成します。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 http://www.kuins.ac.jp/faculty/welfare/3policy.html
1. 学位授与の方針【DP】 KUIS 学修ベンチマークで定めている教育目標に対して、以下の力・資質を備えた人物に学位（教育福祉学）を授与します。 (1) 自律的で主体的な態度（自律性） 教員・社会福祉従事者としての使命と目標を明確に持ち、教育・社会福祉業務に自律的・意欲的に取り組むことができる。 (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 教員・社会福祉従事者として社会の動向をふまえ、教育や福祉の現場において必要とされる実践力を身につけ、地域社会や他者のために責任ある行動をとることができる。 (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） 教員・社会福祉従事者として、その人がもつ背景や属性、価値観等の多様性を理解し、相手の立場を尊重することができ、地域、保護者、他職種等との連携・協働を行うことができる。 (4) 問題発見・解決力 教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 (5) コミュニケーションスキル 教員・社会福祉従事者として教育や福祉の現場で円滑にコミュニケーションをとることができるスキルを獲得し、相互の立場を尊重した人間関係を構築することができる。 (6) 専門的知識・技能の活用力 教員・社会福祉従事者として必要とされる教育学や社会福祉学の体系的な知識や学修成果を状況に応じ総合的かつ包括的に活用することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 http://www.kuins.ac.jp/faculty/welfare/3policy.html

2. 教育課程編成の方針【CP】

本学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる知識・技能などを修得できるように、4年間の教育内容を体系的に編成し、教育方法を工夫して、達成状況を評価していきます。

1 教育内容

本学科の教育課程は、基盤教育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目で体系的に構成し、基礎から応用へ段階的に学べるように編成します。また、大学全体として、さまざまな分野で求められている「安全で安心」な組織をマネジメントする力を養うための教育を行います。

科目の段階的編成を明確にするために、すべての科目に内容と難易度を表現する記号と番号を付するナンバリングを行い、教育課程の体系と履修の優先度を明示します。

基盤教育科目と専門教育科目の内容は以下の通りです。

(1) 基盤教育科目

基盤教育科目では、「大学卒業後まで見通した生き方の基盤（教養）を学ばせる」という意味と「大学の教育での学びの基盤となるべきスキルなどを学ばせる」という2つ意味を持っており、それを実現する教育課程を編成します。

- ・レポートの書き方や批判的な思考などの大学での学びに必要な知識を学びます。
- ・人間、社会、科学をテーマとする生活に直面した課題を考え、教養を身につけます。
- ・グローバル社会に必要な語学、ICT（情報通信技術）、スポーツに関するスキルを身につけます。
- ・異文化の社会について理解し、協力する態度を身につけます。
- ・卒業後の進路を見据えたキャリア形成を養います。

①基盤教育科目においては、リベラルアーツとして「人間学」を中心に「人間の理解」、「社会と生活」、「科学と生活」の3領域の履修を通して、現代社会における広範な問題の理解のための基本的視点・考え方を学びます。さらにそれらの学びを生かし、自らのキャリアを考えるキャリア教育科目を学びます。

②KUIS ベーシックス科目群では、初年次教育を通して大学への適応をはかり、大学における基本的な学習スキルと社会に出てからのコミュニケーションスキルを修得します。

③コモンベーシックス科目群では、外国語科目やICT活用などの情報系科目を含んで、基礎的なコミュニケーションスキルの獲得をはかります。

④語学教育においては英語教育において習熟度に基づくクラス編成をとり、定期的に外部テスト等を用いて進捗度を確認し、学生自身の学習進度にあったコミュニケーション力育成をはかります。

⑤すべての学生は国外における経験学習として、2年次もしくは3年次に海外プログラム（グローバルスタディ）の履修を行い、その参加に先立ち、「リサーチ入門」を必修科目として1年次後半に履修します。

⑥すべての学生に、1年次において、地域における経験学習としてサービ斯拉ーニング、またはインターンシップの履修を選択必修とし、学生自身の専攻選択も視野に入れ、積極的に地域へ貢献する学外活動に参加します。

⑦すべての学生が「評価と実践Ⅰ」と「評価と実践Ⅱ」を履修し、評価の意義と重要性に関する知識・理解のうえに、自分自身の学修の成果に関する自己評価を行い、それを第三者に説明できるようになることが求められます。

(2) 専門教育科目

専門教育については、教育福祉学科の共通した基礎科目群と2つの専攻（こども学専攻、福祉学専攻）の中心となる基幹科目（専攻コア科目）群、基幹科目をさらに発展的な学修につなげる展開科目群の3つの科目群からなる編成となっています。

1年次終了時点で専攻・コースを選択し、選択した専攻・コースの教育目標に沿った科目を履修します。

1) こども学専攻

・教育・保育コース

保育士に必要な知識、技能の習得を図り、実習、インターンシップ等の実践的体験をすることで専門職として活躍できる実践力を身につけます。

・教育専修コース

小学校、特別支援学校等の教員に必要な知識、技能の習得を図り、実習、インターンシップ等の実践的体験し、専門職として活躍できる実践力を身につけます。

2) 福祉学専攻

・社会福祉専修コース

ともに生きる社会に貢献し、グローバルな視点を持った社会福祉の専門職に必要な知識、技能の習得を図り、実習、インターンシップ等の実践的体験し、福祉現場で活躍できる実践力を身につけます。

・福祉・保育コース

こども家庭福祉の専門職に必要な知識、技能の習得を図り、実習、インターンシップ等の実践的体験し、福祉現場で活躍できる実践力を身につけます。

①専攻・コースで取得可能な資格・免許が取得できるよう、保育士資格・幼稚園教諭免許・小学校教諭免許・特別支援学校教諭免許の取得・社会福祉士国家試験受験資格の取得等に必要な科目を、2年次から体系的・系統的に配置します。

②教育や福祉の現場で求められている実践的能力の育成のために、特別支援教育関連科目と初等教育での英語教育科目（初等英語教育研究、発音指導）、防災士資格取得関連科目等の履修を奨励します。

2 教育方法

アクティブラーニングの視点を取り入れ、学生が能動的に学べる教育方法を実践します。主な手法は次の通りです。

(1) アクティブラーニングを重視した教育方法を取り入れます。

主体的な学びの力を高めるために、ハイ・インパクト・プラクティスを充実させ、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を、専門教育科目を中心に実施します。

(2) 評価のフィードバックを行います。

専門教育科目においては、教室外学修の課題を課す時期と課題の整合性・連続性をはかり、形成的評価のための期中のフィードバックを行います。

(3) 課題発見・解決力をつけるために経験学習を取り入れます。

サービ斯拉ーニング、インターンシップ、グローバルスタディといった経験学習の機会を設定します。現実での課題を発見したり、知識・技能を用いて課題解決策を提案したりすることにより、経験を次の学習に活かします。

(4) ICT システムを利用した教育方法を取入れます。

e ラーニングシステムおよび e ポートフォリオシステムを利用します。

e ラーニングシステムは、予習・復習、小テスト、レポート提出、等に利用します。

e ポートフォリオには、学修成果を蓄積し、自己の学修成果を自身で管理して、目標達成の裏付けとしたり、次の目標設定に利用したりします。

(5) ラーニング・ルートマップを用いて学生自身が計画を立てて学修を進めます。

4 年間の学修の流れを学修フローチャートで示します。また、専攻ごとの科目体系はカリキュラムマップで示します。学生は学修フローチャートやカリキュラムマップを参照し、卒業後の進路を考慮しながら、4 年間の計画を立て、ラーニング・ルートマップに表現します。随時、計画の遂行を確認し、必要があれば計画を修正しながら目標達成を目指します。

(6) 自己評価とふりかえりをします。

目標・記録・評価の総合的ツールである e ポートフォリオを 4 年間かけて作成し、自己の学修成果と学生生活を自分自身で管理し、「ふりかえり」を行います。さらに、各学期末に KUIS 学修ベンチマークの達成度について学生による自己評価を行い、アドバイザー教員との面談を通し、「ふりかえり」を深めます。

(7) 採用試験、国家試験対策をします。

教員や保育者としての採用試験、社会福祉士等の国家試験受験に必要な専門的知識の能力確認のために、外部テストの受験及び e ラーニングによる自己学習の推進や結果の継続的なモニタリングを行います。また、学科教員による採用試験・国家試験対策のための時間を開設し、2 年次から段階を踏んだ採用試験対策プログラムを実施します。

3 教育評価

それぞれの科目における評価、および、卒業認定・学位授与の方針に掲げる 6 つの目標に対する評価を次の考え方と方法で行います。

(1) 形成的評価を用いつつ、各学期の終わりに総括的評価を行います。

各科目では、学修の成果を評価するためにテスト、レポート、プレゼンテーションなどを利用します。レポートやプレゼンテーションはルーブリック（評価表）を

用いて評価します。評価は学期中にも行い、学生の理解状況を把握して補習を設定したり、学生へのフィードバックに利用したりします（形成的評価）。学期の終盤には総合的・全体的な評価を行います（総括的評価）。成績評価はこれらの評価を組み合わせて多面的・総合的に行います。

(2) KUIS 学修ベンチマークを定期的にチェックすることで到達度を確認します。

半年に一度、卒業認定・学位授与の方針に掲げた力・資質について、その到達度を定められた評価指標（KUIS 学修ベンチマークルーブリック）で自己評価を行い、教員と面談のうえ、自分の成長の確認をしてもらいます。

(3) 2 年次終了時に到達確認試験により専門基礎知識の修得を確認します。

2 年生終了時には、それまでの専門必修科目の水準を修得し、卒業研究を履修する基礎レベルが修得できているかを確認する「到達確認試験」を行い、不合格の者には再試験を課し、その合格を求めます。

(4) 卒業研究によって卒業時の専門知識の修得を確認します。

4 年間の学修成果は卒業研究（必修）によって行い、複数教員によって評価ルーブリックを活用し総括的評価を行います。卒業研究の履修条件としては、履修規程に定める累積 GPA、3 年次までの修得単位数に加え、上記「到達確認試験」の合格を求めます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：（公表方法：大学ホームページにて公開 <http://www.kuins.ac.jp/faculty/welfare/3policy.html>）

3. 入学者選抜の方針【A P】

本学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

[知識・技能]

(1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。

(2) 教育、保育、社会福祉の専門的な知識・技能を学修するための基盤となる日本語運用力（文章読解力、漢字検定 3 級程度）や表現力（課題に応じた内容をまとめる力、文章を読んでまとめる力他）を身につけている。

(3) 基礎的英語力（英検 3 級程度）を身につけている。

(4) 基礎的数学力（数学 I・数学 A 程度）を身につけている。

[思考力・判断力・表現力]

(1) 教育、保育、社会福祉に関する諸課題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。

[主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度]

(1) 教育、保育、社会福祉領域の専門性の高い仕事に就く意欲がある。

(2) 学校での課外活動・ボランティア活動等の経験があり、他の人たちと協働して活動や学習をすることに進んで参加したり、課題をやり遂げたりすることができる。

- (3) 学校でのグループ学習で、他の人たちと協働して、与えられたテーマに必要な情報を収集・整理して、自分たちの提案をすることができる。
- (4) テーマに基づいて情報を選択的に収集し、他の人にもわかりやすい構成でまとめることができる。

[入学前教育]

- (1) 入学前教育として求められる、必要な基礎的知識を身につけるためのeラーニングプログラムに最後まで取り組むことができる。

学部等名 国際コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公開） http://www.kuins.ac.jp/old_faculty/aim/english.html
（概要） 英語コミュニケーション学科（以下、「本学科」という）では、本学の課程を修め、126 単位の単位修得と必修等の条件を充たし、国際コミュニケーションの場面で活用できる英語運用能力、国際地域文化あるいはビジネスに関する知識、国際的視野、および、以下の力・資質を身につけた人材を育成します。
卒業の認定に関する方針（公表方法：（公表方法：大学ホームページにて公開） http://www.kuins.ac.jp/faculty/english/3policy.html）
1. 学位授与の方針【DP】 英語コミュニケーション学科（以下、「本学科」という）では、本学の課程を修め、126 単位の単位修得と必修等の条件を充たし、国際コミュニケーションの場面で活用できる英語運用能力、国際地域文化あるいはビジネスに関する知識、国際的な視野、および、以下の 6 つの力・資質を総合的に活用しながらグローバルに活躍できる人物に学士（英語学）の学位を授与します。 （1）自律的で主体的な態度（自律性） 自ら主体的に計画を立てて実行し、ふりかえりを行いながら取り組むことができる。 （2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 社会や集団のために貢献し、より多くの人々が他者と協働し参加するような貢献ができる。 （3）多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） 自分とは考え方や価値観の異なる人々を尊重し、地域、人種、宗教など様々な多様性を受け容れながら行動できる。 （4）問題発見・解決力 様々な社会的・文化的な現象について科学的な視点から理解し、根拠をもとつた解決のための提案ができる。 （5）コミュニケーションスキル 日本語・英語双方の言語で必要なコミュニケーションをとることができる。特に、英語力については 2 年次終了までに TOEIC 600 点以上、CEFR*-B2 レベル程度を達成する。 *ヨーロッパ言語共通参照枠（Common European Framework of Reference for Languages）を指す。語学のコミュニケーション能力のレベルを示す国際標準規格。 （6）専門的知識・技能の活用力 アジア太平洋地域を中心とした国際社会に関する情報をリアルタイムで把握するとともに、その情報を自らの立場で専門的知識を用いて活用することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開
<http://www.kuins.ac.jp/faculty/english/3policy.html>）

2. 教育課程編成の方針【C P】

本学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる知識・技能などを修得できるように、4年間の教育内容を体系的に編成し、教育方法を工夫して、達成状況を評価していきます。

1 教育内容

本学科の教育課程は、基盤教育科目と専門教育科目で構成し、科目内容に応じて分類し、基礎から応用へ段階的に学べるように編成します。

科目の段階的編成を明確にするために、すべての科目に内容と難易度を表現する記号と番号を付するナンバリングを行い、教育課程の体系と履修の優先度を明示します。

基盤教育科目と専門教育科目の内容は以下の通りです。

(1) 基盤教育科目

基盤教育科目では、生涯にわたって活躍し、豊かな人生を送るための基盤となる教養やスキルを修得します。基盤教育科目は低学年を中心に編成し、以下の内容について学びます。

- ・レポートの書き方や批判的な思考などの大学での学びに必要な知識を学びます。
- ・人間、社会、科学をテーマとする生活に直面した課題を考え、教養を身につけます。
- ・グローバル社会に必要な語学、ICT（情報通信技術）、スポーツに関するスキルを身につけます。
- ・異文化の社会について理解し、協力する態度を身につけます。
- ・卒業後の進路を見据えたキャリア形成を養います。

(2) 専門教育科目

専門教育科目では、コミュニケーションツールとしての英語力を強化しながら、アジア太平洋地域を中心に、国際的な視野で物事を理解し、行動するための知識や方法を学びます。

- ・1～2年次では、英語運用能力の育成を行い、4技能の基礎を固めます。1年終了時TOEIC450点取得（海外留学条件）、2年終了時TOEIC600点取得を目指して、段階的に英語力を強化します。
- ・1年終了時には、学生の希望や適性などを考慮して専攻を決定します。本学科では、次の2つの専攻を設定します。

1) 国際地域文化専攻

様々な文化的・社会的背景を理解しながら国際社会で活躍するための情報や知識について学びます。

2) ビジネスコミュニケーション専攻

国際的なビジネス現場で実践的に活躍するための知識や教養について学びます。

- ・ 2 年次以降、専攻ごとに履修すべき科目を定めます。専攻の科目を履修することで、その専攻の教育目的に沿った科目を体系的に学びます。
- ・ 2 年次秋学期には、2 専攻に共通して、1 学期間以上海外の協定校に留学する「課題研究（グローバルリサーチ）」を履修します。
- ・ 3 年次以降はそれまでに学んだ専門的な内容をさらに発展的に学ぶための科目を履修します。
- ・ 希望する場合は中高教職免許、また日本語教員養成の修了証取得のための科目を履修します。

2 教育方法

アクティブラーニングの視点を取り入れ、学生が能動的に学べる教育方法を実践します。主な手法は次の通りです。

(1) グループワーク等を重視した学習方法を取り入れます

教室内の講義型授業においてもグループワークやペアワーク、ディスカッションを活用します。これらの手法を通して、学生が協働して主体的・能動的に学びを深めていきます。

(2) 英語運用能力をモニタリングします。

1 年終了時 TOEIC450 点以上、2 年終了時 TOEIC600 点以上（CEFR-B2 レベル）の達成を目標に、自分のレベルに応じた科目を履修していきます。

(3) 課題発見・解決力をつけるために経験学習を取り入れます

課題研究（グローバルリサーチ）、サービ斯拉ーニング、インターンシップといった経験学習の機会を設定します。現実での課題を発見したり、知識・技能を用いて課題解決策を提案したりすることにより、経験を次の学習に活かします。

(4) 学期中・学期末に評価のフィードバックを行います

学期中・学期末を通して評価を複数回行います。評価後のレポートや答案は可能な限りすべて学生に返却します。学習上の課題を明確にして、理解の向上に役立てます。

(5) ICT システムを利用した教育方法を取入れます

e ラーニングシステムおよび e ポートフォリオシステムを利用します。

e ラーニングシステムは、予習・復習、小テスト、レポート提出、等に利用します。

e ポートフォリオには、学修成果を蓄積し、自己の学修成果を自身で管理して、目標達成の裏付けとしたり、次の目標設定に利用します。

(6) ラーニング・ルートマップを用いて学生自身が計画をたてて学修を進めます

4 年間の学修の流れを学修フローチャートで示します。また、専攻ごとの科目体系はカリキュラムマップで示します。学生は学修フローチャートやカリキュラムマップを参照し、卒業後の進路を考慮しながら、4 年間の計画を立て、ラーニング・ルートマップに表現します。随時、計画の遂行を確認し、必要があれば計画を修正しながら目標達成を目指します。

3 教育評価

それぞれの科目における評価、および、卒業認定・学位授与の方針に掲げる6つの目標に対する評価を次の考え方と方法で行います。

- (1) 形成的評価を用いつつ、各学期の終わりに総括的評価を行います
各科目では、学修の成果を評価するためにテスト、レポート、プレゼンテーションなどを利用します。レポートやプレゼンテーションはルーブリック（評価表）を用いて評価します。評価は学期中にも行い、学生の理解状況を把握して補習を設定したり、学生へのフィードバックに利用します（形成的評価）。学期の終盤には総合的・全体的な評価を行います（総括的評価）。成績評価はこれらの評価を組み合わせて多面的・総合的に行います。
- (2) KUIS 学修ベンチマークを定期的にチェックすることで到達度を確認します
半年に一度、卒業認定・学位授与の方針に掲げた力・資質について、その到達度を定められた評価指標（KUIS 学修ベンチマークルーブリック）で自己評価を行い、教員と面談のうえ、自分の成長の確認をしてもらいます。
- (3) 2年次終了時に到達確認試験により専門基礎知識の修得を確認します
2年次終了時には、専門基礎知識の修得度を確認し、卒業研究の履修能力を確認するために「到達確認試験」を行います。不合格の者には再試験を課し、その合格を求めます。
- (4) 卒業研究によって卒業時の専門知識の修得を確認します
4年間の学修成果は、国際コミュニケーションに関わる課題を扱った卒業研究（必修）によって総合的に評価を行います。評価方法は複数教員が共通の評価指標（評価ルーブリック）を活用して行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開
<http://www.kuins.ac.jp/faculty/english/3policy.html>）

3. 入学者選抜の方針【AP】

本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

（高等学校での修得が望ましい水準）

[知識・技能]

- (1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。
- (2) 高等学校までの履修内容の「国語総合（現代文）」を通じて、日本語運用能力（聞く・話す・読む・書くことについての基礎力、漢字検定3級程度以上）を身につけている。

(3) 基本的な英語力（英検準2級程度）を身につけている。具体的には、英語で日常の簡単な挨拶や自分の身の回りのことについて表現したり、まとまった英文を読んで理解したり、書いたりできる。

(4) 基礎的数学力（数学Ⅰ・数学A程度）を身につけている。

[思考力・判断力・表現力]

(5) ビジネス・国際関係・文化・教育等に関連した社会の様々な問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。

[主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度]

(6) 学校でのグループ学習、課外活動やボランティア活動等の経験があり、他の人々と協力しながら、課題をやり遂げることができる。

(7) 国際社会においてビジネス・国際関係・文化・教育等に関連した分野で活躍したいという意欲がある。

(8) 海外留学に積極的に取り組む意欲がある。

[入学前教育]

(9) 入学前教育として求められる、必要な基礎的知識を身につけるための e ラーニングプログラムに最後まで取り組むことができる。

学部等名 保健医療学部 看護学科
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公開） http://www.kuins.ac.jp/old_faculty/aim/nurse.html
（概要） 看護学科（以下、「本学科」という）では、本学の課程を修め、126 単位の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、グローバルな視野に立った教養と看護学の専門的知識・技術・態度及び以下の力・資質を備えた看護専門職を育成します。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開） http://www.kuins.ac.jp/faculty/nurse/3policy.html
1. 学位授与の方針【DP】 KUIS 学修ベンチマークで定めている教育目標に対して、以下の力・資質を備えた人物に学士（看護学）の学位を授与します。 (1) 自律的で主体的な態度（自律性） 看護職を目指す者として、責任をもって意欲的に行動することができる。 (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 社会のルールを守り、他者と協働しながら、国際感覚を持った看護職として社会に貢献することができる。 (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） 世界には、様々な文化や価値観をもった人々がいることを理解し、看護の対象者の違いを尊重しながら行動できる。 (4) 問題発見・解決力 看護の対象者の情報の収集・分析を行い、課題を発見し、解決のための 計画を立案し実施できる。 (5) コミュニケーションスキル 対象者の思いや考えを理解し、自分の考えを論理的に整理して工夫し伝えることができる。 (6) 専門的知識・技能の活用力 看護における現象を、習得した知識と技術を用いて説明し、個別性に合わせて活用することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開） http://www.kuins.ac.jp/faculty/nurse/3policy.html
2. 教育課程編成の方針【CP】 本学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる知識・技能などを修得できるように、4 年間の教育内容を体系的に編成し、教育方法を工夫して、達成状況を評価していきます。

1 教育内容

本学科の教育課程は、基盤教育科目と専門教育科目で構成し、科目内容に応じて分類し、基礎から応用へ段階的に学べるように編成します。

科目の段階的編成を明確にするために、すべての科目に内容と難易度を表現する記号と番号を付するナンバリングを行い、教育課程の体系と履修の優先度を明示します。

基盤教育科目と専門教育科目の内容は以下の通りです。

(1) 基盤教育科目

基盤教育科目では、生涯にわたって活躍し、豊かな人生を送るための基盤となる教養やスキルを修得します。基盤教育科目は低学年を中心に編成し、以下の内容について学びます。

- ・レポートの書き方や批判的な思考などの大学での学びに必要な知識を学びます。
- ・人間、社会、科学をテーマとする生活に直面した課題を考え、教養を身につけます。
- ・グローバル社会に必要な語学、ICT（情報通信技術）、スポーツに関するスキルを身につけます。
- ・異文化の社会について理解し、協力する態度を身につけます。
- ・卒業後の進路を見据えたキャリア形成を養います。

(2) 専門教育科目

専門教育科目では、看護学で求められる知識や技能の基礎を学びます。

- ・1年次には、医学、社会学、心理学などにより人を心身の両面から理解し、さらに基礎看護学の講義、演習、実習を通して看護の基礎的知識、技術を学びます。
- ・2年次には、領域別の看護学の講義、演習で学びます。
- ・2年終了時には、学生の希望や適性などを考慮して専攻を決定します。本学科では2つの専攻を設定します。

1) 看護学専攻

科学的思考に基づいたヒューマンケアを実践できる看護専門職者となるための専門的知識・技術・態度を学びます。

2) 看護グローバル専攻

看護学専攻の内容に加えて、文化背景の異なる患者や住民への看護実践の基礎を学びます。

- ・3年次には領域別実習において、実習で体験した事柄を大学で学修した知識に基づいて理解し、実践できるよう学びます。看護グローバル専攻では、これらに加えて海外研修を通して社会文化的背景の看護実践への影響を学びます。
- ・4年次の卒業研究および統合看護実習で、専門教育科目を中心とする教育内容の統合と総合化を行います。看護グローバル専攻では、これらに加えて海外研修での体験の振り返りや報告（発表）を通し、自らの異文化に対する価値観や見方を振り返り、異文化対応能力の向上を図ります。
- ・助産師コースおよび保健師コースは、3年次に学生の希望や適性などを考慮して決定します。3年次に選抜された者がそれぞれの国家試験受験資格の取得に必要な科目を3年次、4年次に履修します。

2 教育方法

アクティブラーニングの視点を取り入れ、学生が能動的に学べる教育方法を実践します。主な手法は次の通りです。

(1) グループワーク等を重視した学習方法を取り入れます

教室内の講義型授業においてもグループワークやペアワーク、ディスカッションを活用します。これらの手法を通して、学生が協働して主体的・能動的に学びを深めていきます。

(2) 課題発見・解決力をつけるために経験学習を取り入れます

サービ斯拉ーニング、各領域別実習・統合実習、グローバルスタディといった経験学習の機会を設定します。現実での課題を発見したり、知識・技能を用いて課題解決策を提案したりすることにより、経験を次の学習に活かします。

(3) 学期中・学期末に評価のフィードバックを行います

学期中・学期末を通して評価を複数回行います。評価後のレポートや答案は可能な限りすべて学生に返却します。学習上の課題を明確にして、理解の向上に役立てます。

(4) ICT システムを利用した教育方法を取入れます

e ラーニングシステムおよびe ポートフォリオシステムを利用します。

e ラーニングシステムは、予習・復習、小テスト、レポート提出、等に利用します。

e ポートフォリオには、学修成果を蓄積し、自己の学修成果を自身で管理して、目標達成の裏付けとしたり、次の目標設定に利用します。

(5) ラーニング・ルートマップを用いて学生自身が計画をたてて学修を進めます

4年間の学修の流れを学修フローチャートで示します。また、専攻ごとの科目体系はカリキュラムマップで示します。学生は学修フローチャートやカリキュラムマップを参照し、卒業後の進路を考慮しながら、4年間の計画を立て、ラーニング・ルートマップに表現します。随時、計画の遂行を確認し、必要があれば計画を修正しながら目標達成を目指します。

(6) 国家試験受験資格に必要な専門的知識を修得するため、1年次から段階的に学修します

e ラーニングによる自己学習の推進や、外部テスト結果のモニタリングを行います。また学科教員による模擬試験・国家試験対策のための時間を開設し、1年次から段階を追って計画を立て、学修します。

3 教育評価

それぞれの科目における評価、および、卒業認定・学位授与の方針に掲げる6つの目標に対する評価を次の考え方と方法で行います。

(1) 形成的評価を用いつつ、各学期の終わりに総括的評価を行います

各科目では、学修の成果を評価するためにテスト、レポート、プレゼンテーションなどを利用します。レポートやプレゼンテーションはルーブリック（評価表）を用いて評価します。評価は学期中にも行い、学生の理解状況を把握して補習を設定したり、学生へのフィードバックに利用します（形成的評価）。

学期の終盤には総合的全体的な評価を行います（総括的評価）。

成績評価はこれらの評価を組み合わせで多面的・総合的にを行います。

- (2) KUIS 学修ベンチマークを定期的にチェックすることで到達度を確認します。
半年に一度、卒業認定・学位授与の方針に掲げた力・資質について、その到達度を定められた評価指標（KUIS 学修ベンチマークルーブリック）で自己評価を行い、教員と面談のうえ、自分の成長の確認をしてもらいます。
- (3) 2 年次終了時に到達確認試験により専門基礎知識の修得を確認します。
2 年次終了時には、専門基礎知識の修得度を確認し、卒業研究の履修能力を確認するために「到達確認試験」を行います。不合格の者には再試験を課し、その合格を求めます。
- (4) 統合看護学実習及び卒業研究によって卒業時の専門知識の修得を確認します。
4 年間の学修成果は、統合看護学実習及び看護学に関わる課題を扱った卒業研究（必修）によって総合的に評価を行います。評価方法は複数教員が共通の評価指標（評価ルーブリック）を活用して行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開
<http://www.kuins.ac.jp/faculty/nurse/3policy.html>）

3. 入学者選抜の方針【AP】

（求める学生像）

本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める人材を育成するために、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

（高等学校での修得が望ましい水準）

[知識・技能]

- (1) 高等学校の教育課程を幅広く習得している。
- (2) 高等学校までの履修内容のうち、「国語総合（現代文）」と「英語」を通じて、聞く・話す・読む・書くことについての基礎力を身につけている。
基礎的英語力（英検 3 級程度）を身につけている。
- (3) 高等学校までの履修内容のうち、看護学を学ぶ上で基礎となる「理科（生物基礎または化学基礎）」を身につけている。

[思考力・判断力・表現力]

- (4) 身近な医療や看護の問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。
[主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度]
- (5) 看護学について興味があり、看護についての知識や技術を社会で活かしたいという意欲を持っている。

- (6) 学校でのグループ学習、課外活動やボランティア活動等の経験があり、他の人
たちと協力しながら、課題をやり遂げることができる。

[入学前教育]

- (7) 入学前教育として求められる、必要な基礎的知識を身につけるための e ラーニ
ングプログラムに最後まで取り組むことができる。

学部等名 人間科学部 経営学科
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公開 http://www.kuins.ac.jp/old_faculty/aim.html ）
（概要） 経営学科（以下、「本学科」という）では、グローバル化が進行する社会において求められる世界市民としての汎用的な知識、技能、態度・志向性を身につけ、経営に関する実践的な知識・技能を総合的に活用し、社会や組織活動に貢献できる人間の育成を目的とする。（人間科学部学部規則第3条）
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 http://www.kuins.ac.jp/var/rev0/0026/3841/11732214453.pdf ）
1. 学位授与の方針【DP】 経営学科（以下、「本学科」という）では、本学の課程を修め、126単位の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、グローバルな視野に立った教養と営利・非営利の継続的事業体（以下組織や集団と呼ぶ）のマネジメントに関する専門知識・技能を修得し、次のような能力・資質を備えた人物に学位を授与します。 (1) 自律的で意欲的な態度（自律性） 自分自身の目標をもち、その実現のために、自分の行動に責任をもって、意欲的に行動することができる。 (2) 社会や他者に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 社会のルールを守り、組織や集団の目標を理解して、他者のために能動的に行動し、貢献することができる。 (3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界や社会には多様な人々が存在し、様々な文化や価値観が存在することを客観的に理解し、それらの違いを尊重しながら、行動することができる。

(4)問題発見・解決力

マネジメントの現場において、情報収集や情報分析を行い、問題を発見することができ、解決へのアイデアを構想し提案することができる。

(5)コミュニケーション能力

資料や他者からの情報を収集することができ、自分の思いや考えを的確に表現・発信し、他者と意見を交わし調整することができる。

(6)専門的知識・技能 の活用力

組織や集団がどのような論理で、どのような意思決定を行い、どのような結果になったのかを理解し、説明することができ、組織や集団のマネジメントについての専門的知識と技能を修得し、実際の場面で、その時・その場の状況に応じて、再構成し活用することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開）

<http://www.kuins.ac.jp/var/rev0/0026/3841/11732214453.pdf>

2. 教育課程編成の方針【CP】

本学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる知識・技能などを修得させるために、共通教育科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講します。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の難易度を表現する番号をふるナンバリングを行い、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。教育内容、教育方法、教育評価については以下のように方針を定めます。

1)教育内容

(1) 人間学総合教育科目では、幅広い教養や様々な立場におけるものの見方の獲得を目的とし、必修科目「人間学」を中心に、人間の生活についての現状と課題について、基本的な視点と考え方を知り、自らが考える経験を図ります。また、「人間の理解」、「社会と生活」、「科学と生活」の3領域の履修を通して、現代社会における広範な問題の理解のための基本的視点・考え方を学びます。さらにそれらの学びを生かし、自らのキャリアを考えるキャリア教育科目を学びます。

(2) コモンベーシックス科目群では、初年次教育をとおり、大学への適応をはかり、大学における基本的な学習スキルと社会に出てからのコミュニケーション・スキルを

修得します。学習技術、コンピュータ技術、外国語科目などを通して、情報収集を含むコミュニケーション能力の獲得を図ります。

(3)語学教育においては、英語教育において習熟度に基づくクラス編成をとり、定期的に外部テストを用いて習熟度を確認し、学生自身の学修進度にあった英語力の育成をはかります。

(4)組織や集団の構造と機能の特性を理解し、実際の組織や集団のマネジメントに必要な知識・技能を修得するため、基礎から基幹、展開と発展的な科目の区分を行い、1年次から4年次まで講義科目、演習科目、学外での体験学修科目を段階的かつ重層的に配当します。

(5)経営学の専門教育科目を学修するにあたり、2年次よりツーリズムマネジメントコース、ホテル・ブライダルコース、地域マネジメントコース、セーフティマネジメントコースの4コースに沿って、体系的・順序性を踏まえた科目を配当します。

(6)1年次から3年次にかけて組織や集団での就労を経験するインターンシップに参加します。さらに1年次もしくは2年次前半には地域における奉仕体験活動を通して地域の問題を理解し解決を探るサービスラーニングに参加し、2年次には異文化との接触・交流を通して学ぶグローバルスタディに参加します。グローバルスタディへの参加の前にリサーチ入門を必修科目として履修します。

(7)学修内容の総合化をめざす問題解決学習科目として、1年次から3年次まで「プロジェクトマネジメント演習Ⅰ～Ⅳ」を毎年履修し、人材・資金・設備・物資・スケジュールなどをバランスよく調整し、全体の進捗状況をマネジメントするという経営の実務に沿った学修を発展的に繰り返し、経営学等で学んだ専門知識を活用した問題発見・問題解決の方法の修得を図ります。

(8)学生全員が「評価と実践Ⅰ」と「評価と実践Ⅱ」を履修し、評価の意義と重要性に関する知識・理解のうえに、自分自身の学修の成果に関する自己評価を行い、それを第三者に説明できるようになることが求められます。

2) 教育方法

(1)主体的な学びの力を高めるために、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を専門教育科目で実施します。

(2)経営学の専門教育科目においては、教室外学修の課題を課す時期と課題の整合性・連携性をはかり、学生の学習が特定時期だけに偏らないように、計画的な学修がしや

すい環境をつくります。また、形成的評価のための期中のフィードバックに努めます。

(3) 卒業までに修得すべき汎用的能力を測る KUIS 学修ベンチマークの達成度について、各学期末に学生が自己評価を行い、アドバイザー教員との面談を通して振り返りと改善を行います。

(4) 目標・記録・評価の総合的ツールである e ポートフォリオを 4 年間かけて作成し、自己の学修成果と学生生活を自分自身で管理し、「ふりかえり」(リフレクション)を行います。

3) 教育評価

(1) 2 年生終了時には、それまでの専門必修科目の水準を修得し、卒業研究を履修する基礎レベルが修得できているかを確認する「到達確認試験」を行い、不合格の者には再試験を課し、その合格を求めます。

(2) 4 年間学修成果は卒業研究(必修)によって行い、複数教員によって評価ルーブリックを活用し総括的評価を行います。卒業研究の履修条件としては、履修規程に定める累積 GPA、3 年次までの修得単位数に加え、上記「到達確認試験」の合格を求めます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開）

<http://www.kuins.ac.jp/var/rev0/0026/3841/11732214453.pdf>

3. 入学者選抜の方針【AP】

本学科は、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに定める教育を受けるための条件として、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

(1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。

(2) 高等学校までの履修内容のうち、「国語総合（現代文）」と「英語」を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身につけている。

(3) 社会の様々な問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。

(4) 経営学について興味があり、マネジメントについての知識や経験を社会で活かしたいという意欲がある。

(5) 学校でのグループ学習、課外活動やボランティア活動などの経験があり、他の人々と協力しながら課題をやり遂げることができる。

(6) 入学前教育として求められる、必要な基礎的な知識を身につけるための e ラーニングプログラムに最後まで取り組むことができる。

学部等名 **教育学部 英語コミュニケーション学科**

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公開

http://www.kuins.ac.jp/old_faculty/aim/english.html

（概要）

英語教育学科(以下、「本学科」という)では、本学の課程を修め、126 単位の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、グローバルな視野に立った教養と専門知識・技術を修得し、次のような能力・資質を備えそれらの力を状況に応じ総合的に活用することができる人材を育成します。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開

<http://www.kuins.ac.jp/var/rev0/0026/3841/11732214453.pdf>

1. 学位授与の方針【DP】

英語教育学科(以下、「本学科」という)では、本学の課程を修め、126 単位の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、グローバルな視野に立った教養と専門知識・技術を修得し、次のような能力・資質を備えそれらの力を状況に応じ総合的に活用することができる人物に学位を授与します。

(1)自律的で意欲的な態度(自律性)

自分の目標をもち、その実現のために、自ら考え、意欲的に行動するとともに、自らを律しつつ、自分の行動には責任が伴うことを自覚できる。

(2)社会や他者に能動的に貢献する姿勢(社会的貢献性)

社会の決まりごとを大切に考え、社会や他者のために勇気をもって行動し、貢献することができる。

(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力(多様性理解)

世界の多様な人々や社会について理解を深め、他者に対する共感的な感覚や態度を身につけ、世界の一員として考え、行動できる。

(4) 問題発見・解決力

状況に応じて、情報ツールを活用し、情報収集や情報分析ができ、問題を発見したり、解決のアイデアを構想したりする思考力や判断力を身につけ、問題を解決することができる。

(5) 日本語のコミュニケーション能力

国内外を問わず、社会生活を営む上で、他人の思いや考えを受け止め、理解するとともに、自分の思いや考えを的確に表現し、意見を交わすことができる。

(6) 英語のコミュニケーション能力

英語を用いて、日常生活や仕事に必要なコミュニケーションをとることができる。資料を理解し、必要な情報を読み取ることができ、英語での討論や意見交換ができる(CEFR-B2レベル程度)*

*ヨーロッパ言語共通参照枠(Common European Framework of Reference for Languages)
語学のコミュニケーション能力別のレベルを示す国際標準規格

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開
<http://www.kuins.ac.jp/var/rev0/0026/3841/11732214453.pdf>）

2. 教育課程編成の方針【C P】

本学科では、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた目標を達成するために、次のような教育内容・教育方法・教育評価の方針に基づき、カリキュラム編成と授業の実施を行います。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の難易度を表現する番号をふるナンバリングを行い、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。

1 教育内容

(1) 4年間を通した学修の基礎となる共通教育においては、必修科目「人間学」を中心に「人間の理解」、「社会と生活」、「科学と生活」の3領域の履修を通して、現代社会における広範な問題の理解のための基本的視点・考え方を学びます。さらにそれらの学びを生かし、自らのキャリアを考えるキャリア教育科目を学びます。

(2) コモンベシックス科目群では、初年次教育をとおり、大学への適応をはかり、大学における基本的な学習スキルと社会に出てからのコミュニケーション・スキルを修得します。学習技術、コンピュータ技術、外国語科目などを通して、情報収集を含むコミュニケーション能力の獲得をはかります。

- (3)英語に関する専門教育科目については、1 年次から 4 年次にかけて。1 年次には、とくに英語力を養う基礎科目を中心に、2 年次からは英語を活用したコミュニケーション能力を育成するために、4 技能(聞く・読む・書く・話す)を組合せた内容を学修します。
- (4)2 年次以降は、英語を活用してコミュニケーションを展開する国際社会や文化や経済に関する基幹科目、進路の方向性(教育、観光等のビジネス)に合わせた展開科目を履修します。
- (5)社会の課題を自己のものとしてとらえ、考え、発信するための国外や地域における体験学習(グローバルスタディ、サービ斯拉ーニング、インターンシップ)を2つ以上履修します。
- (6)(5)のうち、1 年次には地域に根ざした活動(コミュニティスタディ)に参加し、1 年次もしくは 2 年次に、海外プログラム(グローバルスタディ)を履修します。英語を主に用いる職業を目指す学生は、3 年次終了までに、2 回以上の海外渡航プログラム(グローバルスタディ)の参加を求められます。その履修にあたりアジアを含む ACP プログラム等への参加、および 6 ヶ月以上の交換留学を奨励します。
- (7)学生全員が「評価と実践Ⅰ」と「評価と実践Ⅱ」を履修し、評価の意義と重要性に関する知識・理解のうえに、自分自身の学修の成果に関する自己評価を行い、それを第三者に説明できるようになることが求められます。

2 教育方法

- (8)主体的な学びの力を高めるためにアクティブラーニングを取り入れた教育方法を専門教育科目で実施します。
- (9)専門教育科目においては、教室外学修の課題について教育効果を上げるために教員間の連携をはかり、形成的評価のために学期中のフィードバックに努めます。
- (10)4 年間を通じ、英語力の定期的な外部テストの受験と、KUIS ポータルを用いた語学自己学習の結果を用い、英語運用能力の継続的なモニタリングを行い、習熟度に応じた「ふりかえり」と改善を図ります。
- (11)英語専門教育科目においては、毎学期外部テスト等の客観的指標をもとにレベル別にクラスの編成を行い、自分のレベルに応じた科目を履修します。これらの科目では、英語による授業を受けます
- (12)各学期末に KUIS 学修ベンチマークの達成度について、学生による自己評価を行い、アドバイザー教員との面談を通し、「ふりかえり」を行います。
- (13)目標・記録・評価の総合的ツールである e ポートフォリオの作成が奨励されます。

3 教育評価

- (14) 2年生終了時には、それまでの専門必修科目の水準を修得し、卒業研究を履修する基礎レベルが修得できているかを確認する「到達確認試験」を行い、不合格の者には再試験を課し、その合格を求めます。
- (15) 4年間の学修成果は卒業研究(必修)によって行い、複数教員によって評価ルーブリックを活用し総括的評価を行います。卒業研究の履修条件としては、履修規程に定める累積GPA、3年次までの修得単位数に加え、上記「到達確認試験」の合格を求めます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開
<http://www.kuins.ac.jp/var/rev0/0026/3841/11732214453.pdf>）

3. 入学者選抜の方針【AP】

本学科は、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程編成の(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

- (1)高等学校の教育課程を幅広く修得している。
- (2)教員等の語学教育や海外の人々に関わる仕事に就く意欲がある。
- (3)基本的な英語力及び日本語運用力と表現力を身に付けている、具体的には、英語で日常の簡単な挨拶や自分の身の回りのことを書いたり話したり、ある程度まとまった英文を読み理解できるなど、日本英語検定準2級に相当する英語運用能力を入学までに身につけている。日本語は、漢字検定3級程度を背景とした文章読解力、課題に応じた内容をまとめる力などの表現力を身につけている。
- (4)社会の様々な問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。
- (5)学校でのグループ学習、課外活動やボランティア活動等の経験があり、他の人たちと協力しながら、課題をやり遂げることができる。
- (6)入学前教育として求められるeラーニングプログラムに最後まで取り組むことができる。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：（大学ホームページにて公開
http://www.kuins.ac.jp/library/PDF/kuisinfo_2019/01/12_organization_chart_2019.pdf

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・ 副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	4 人	－					4 人
経営学部	－	11 人	2 人	2 人	0 人	0 人	15 人
人間科学部	－	12 人	3 人	3 人	1 人	0 人	19 人
教育学部	－	8 人	12 人	4 人	0 人	0 人	24 人
国際コミュニケー ション学部	－	6 人	3 人	0 人	0 人	0 人	9 人
保健医療学部	－	12 人	4 人	7 人	6 人	0 人	29 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		147 人					147 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：大学ホームページによる公開 http:// www.kuins.ac.jp/faculty/english/teacher.html					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
毎年度、8 月に 2 日、9 月に 1 日、2 月に 2 日、計 5 日間、全教員が一堂に会し教育の 質保証を目的に F D を実施している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並び
に進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
経営学部	100 人	113 人	113%	440 人	113 人	28%	20 人	0 人
人間科学部	125 人	152 人	121%	500 人	819 人	163%	0 人	35 人

教育学部	150 人	182 人	121%	600 人	772 人	128%	0 人	13 人
国際コミュニケーション学部	50 人	55 人	110%	200 人	55 人	27%	0 人	0 人
保健医療学部	80 人	61 人	76%	320 人	359 人	112%	0 人	0 人
合計	505 人	563 人	111%	2060 人	2118 人	102%	20 人	48 人

(備考)

2019 年度より人間科学部経営学科は、経営学部経営学科へ改組、同年度より教育学部英語コミュニケーション学科は、国際コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科へ改組した。

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数			就職者数 (自営業を含む。)	その他
人間科学部	168 人 (100%)	9 人 (5.3%)	135 人 (80.4%)	24 人 (14.3%)		
教育学部	184 人 (100%)	4 人 (2.2%)	171 人 (92.9%)	9 人 (4.9%)		
保健医療学部	85 人 (100%)	0 人 (0.0%)	82 人 (96.5%)	3 人 (3.5%)		
合計	437 人 (100%)	13 人 (3.0%)	388 人 (88.8%)	36 人 (8.2%)		

(主な進学先・就職先) 北播磨総合医療センター、小学校・幼稚園・特別支援学校教員、兵庫県警察本部、大和リース株式会社、ノーリツ株式会社、株式会社阪急交通社 他

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内			
		卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

(備考)

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

授業計画書の作成過程

シラバスは、学生が科目の内容を理解しやすく、活用しやすいシラバスとすることを念頭に作成するように各教員へ依頼している。システム上において自動的に、当該授業の科目ナンバリングコードや開講学期等が自動的に記載される。教員に対しては、下記項目についての記載を求めている。

- 先行して履修すべき科目、並行して履修すべき科目、今後履修すべき科目
- 学生からの質問に答えるための連絡先（メールアドレスや研究室の番号など）
- 授業形態は、「講義科目」「演習科目」「実験科目」「実習科目」「実技科目」など
- 履修制限がある場合の選抜の方法等
- 授業の目的と概要。記載については、当該授業の学問分野における位置づけや、学位プログラムの中で設定されている DP を踏まえ、主語を学生にして記載
- 学習目標 下記のポイントについて、記載
 - ① 学習目標は客観的に評価すること。
 - ② 1つの文章に1つの目標を示す。（複文とにならないように）
 - ③ 評価される条件や基準を明示する。
- 使用する教科書や参考書、教材、授業で扱う内容に関連する文献、参考となる URL や論文名
- 成績評価 具体的に、学習目標が達成されたかどうかをどのように判断するのかの視点から、測定の方法、基準の配分を具体的に記載するように求めている。
- オフィスアワーの曜日時限についての記載。

授業計画書の作成・公表時期

シラバスの作成は、次年度の授業担当が確定する授業開講前年度の1月下旬から、次年度授業担当の専任教員及び非常勤講師に作成を依頼する。その後、各学部学科、高等教育研究開発センター等において、チェックを行い、必要であれば、2月中旬に行われ

る全学FD等において、シラバスの課題や問題点等について取り上げ、修正等の依頼を行っている。

公表は、3月末からの履修登録にあわせて、WEB上にて公開している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
(概要)

卒業認定・学位授与の方針(DP)に掲げる能力・資質及びこれらの総合的な活用力の修得状況は、教育課程編成の方針(CP)の評価に掲げる方法により行い、具体的な評価方法は以下の通りである。

1. KUIS 学修ベンチマーク

卒業認定・学位授与の方針(DP)に掲げる能力・資質のうち、(1) 自律性、(2) 社会的貢献性、(3) 多様性理解、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキルの評価に使用する。これら5つの到達目標を測るために、12項目の測定尺度を設定したKUIS 学修ベンチマークルーブリック(評価基準表)を作成している。学生は半年に一度、このルーブリックにもとづいて、どの能力項目がどのレベルにあるのか自己評価を行い、学生を担当するアドバイザーが学生の自己評価結果の確認を行う。

2. 卒業研究の成果

卒業認定・学位授与の方針(DP)に掲げる能力・資質のうち、(6) 専門的知識・技能の活用力は、すべての学科で必修科目にしている卒業研究の成果によって評価します。評価ツールは、卒業論文のルーブリック評価を使用する。

3. 到達確認試験

卒業認定・学位授与の方針(DP)に掲げる能力・資質のうち、(6)に関連し、基礎的な専門的知識・技能の定着について、2年終了時に到達確認試験を実施して評価を行う。この試験の合格は、本学履修規程に定める成績と単位に関する要件とともに、4年の卒業研究を履修するための要件としている。

4. 総括テスト及びレポートなどによる各科目の成績評価

各科目では、シラバスに記載している方法で成績評価を行う。評価は、テストによる

もののほか、レポートやプレゼンテーションのルーブリック評価などにより、科目の内容や方法に合わせて多元的に行っている。

具体的には、下記の記載をシラバスに求めている。

① 測定の方法（例：中間テスト・期末テスト・レポート・エッセイ・eポートフォリオ等）

② 基準の配分（例：テスト 60%、レポート 20%、毎回のコメント 10%、eポートフォリオ 10%）

なお、それぞれの測定が、どの時期に行われるのか（例：中間テスト（日時）、小レポート（毎回）を明記することで、学生は自分自身でスケジュール等を調整し、準備することができるため、必ず提示するように依頼

・成績評価は、授業途中の評価（中間試験等）だけでなく、総括試験、本試験など総括的な評価を必ず行うことと、総括試験、本試験の配点割合はあらかじめ示し、総括試験、本試験だけで合否が決まるような成績評価にならないように求めている。

・出席点は評価に含めてはいけない（授業への出席は前提）。

・情意的領域の観点を評価の対象とする場合は、それが学習目標に明記されていることと、十分妥当な評価基準を受講生に示しておくこと。

本学におけるGPAの算出方法は下記のとおりである。なお、GPAは学業成績優秀者の表彰や学内における各種奨学生を選考の際に資料としている。

◆ 成績評価と科目G P

各登録科目の成績評価を「4」、「3」、「2」、「1」、「0」に換算する。

成績評価（100点満点）	科目G P（グレート・ポイント）
90点、100点	4
80点	3
70点	2
60点	1
60点未満	0

◆ GPAの計算方法

科目G Pに各授業科目単位数を乗じ、その総和を登録科目総単位数で割る計算でGPAの数値を算出

$$GPA（グレート・ポイント・アベレージ） = \frac{(A科目GP \times A科目単位数) + (B科目GP \times B科目単位数) + (C科目GP \times C科目単位数) + \dots}{登録科目総単位数}$$

◆ GPAと学修指導

GPAによる学修指導は以下の通りです。

- ① 前学期（夏、冬学期は含まない）G P Aによって、履修登録の上限単位数が増減する。
- ② 年間G P A（春学期または秋学期を起点とし、夏学期または冬学期を含む4学期）が1.00未満の者には、学部長が嚴重注意を行う。
- ③ 連続する2学期（夏学期または冬学期を除く）において、各学期のG P Aが共に1.00未満の者には、学部長が保護者同席の上で、嚴重注意を行う。
- ④ 入学以来の累積G P Aが1.50以上で、かつ既修得単位数が80単位以上の者のうち、休学期間及び特別履修期間を除く在学期間が3年以上に達している場合で、原則として2年次末に実施される到達確認試験に合格済みの学生は、履修登録の際に、「卒業研究」を登録することができる。ただし、累積G P Aが1.50未満の場合でも、到達確認試験に合格済みであり、「卒業研究」を登録しようとする直前1年間の年間G P Aが1.60以上で、年間34単位以上を修得し、学修態度に改善があった者には、「卒業研究」の登録を認めることがある。
- ⑤ 1年次秋学期以降で、連続する春・夏・秋・冬・春・夏学期または秋・冬・春・夏・秋・冬学期において当該期間の累積G P Aが1.00未満の者には、学部長が退学を勧告する。但し、本人およびアドバイザーの意見を聞いた上で、成業の可能性があると判断されれば、この限りではない。また、学修の継続を希望する者は、特別履修期間として在学することができる。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上 限 (任意記載事項)
経営学部	経営学科	126 単位	有	直前の学期の GPA により変動 半期 20～25 単位
人間科学部	人間心理学科	126 単位	有	直前の学期の GPA により変動 半期 20～25 単位
教育学部	教育福祉学科	126 単位	有	直前の学期の GPA により変動 半期 20～25 単位
国際コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	126 単位	有	直前の学期の GPA により変動 半期 20～25 単位

保健医療学部	看護学科	126 単位	有	直前の学期の GPA により変動 半期 20～25 単位
人間科学部	経営学科	126 単位	有	直前の学期の GPA により変動 半期 20～25 単位
教育学部	英語コミュニケーション学科	126 単位	有	直前の学期の GPA により変動 半期 20～25 単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学ホームページにて公開

[http:// www.kuins.ac.jp/student/campusmap.html](http://www.kuins.ac.jp/student/campusmap.html)

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
経営学部	経営	857,000 円	300,000 円	262,000 円	
人間科学部	人間心理	857,000 円	300,000 円	262,000 円	
教育学部	教育福祉	857,000 円	300,000 円	262,000 円	
国際コミュニケーション学部	英語コミュニケーション	857,000 円	300,000 円	262,000 円	
保健医療学部	看護	1,278,000 円	300,000 円	262,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学生一人ひとりの学修意欲や学修効果を高めるためのサポート体制が充実している。入学前のウォーミング学習を足がかりにして、入学後はアドバイザー制度、学生メンター制度、学修支援チューター制度、センタープログラムなど、教員や上級生が日々の学生生活や学修への支援、資格対策を実施している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 学生と真剣に向き合う“徹底した個別サポート”を進路選択に係る支援の土台としている。就職活動に関する学生一人ひとりの個人カルテを作成し、職員との対面相談だけでなくアドバイザー教員も交えて、メール・電話などを通じて学生一人ひとりに積極的に働きかけ、学生の希望や個性を最大限に尊重した支援を実現。また、特に就職準備が本格化する3年次については、就職活動プログラムを年間約30本組み込み集中的な準備を実施することで、採用活動の解禁直後から有利な就職活動を展開している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) *保健室 不慮のケガの手当てや、具合の悪い時の静養だけでなく、気軽に立ち寄り日常生活のさまざまな相談を聞くことができるようスタッフの体制を整えている。 *学生相談室 充実したキャンパスライフのための「なんでも相談室」として専門スタッフ（臨床心理士）を常駐、精神面の不調に関するカウンセリングに限らず、それ以外の日常生活で困ったことも何でも相談にのる組織として学生対応を行っている。 *心身の健康の維持に関わる予防的活動 保健室では栄養相談や各種講演会、学生相談室は毎月1回、昼休みにオープンของกลุ่ม活動を実施しています。その他、保健室、学生相談室ともに定期的な便りを発行し、心身の健康に関する情報を発信している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学ホームページによる公開 http://www.kuins.ac.jp/about/secchi.html
--